

海洋土木分野の特定技能外国人の受入れ

～ フィリピンからの受入れの提案 ～

令和4年12月

日本港湾空港建設協会連合会

I 特定技能外国人の受入れ制度

資料番号 1～4

II 海洋土木分野における特定技能外国人の受入れ (日港連による受入れ方法の提案)

資料番号 5～11

III 現地での教育・訓練の概要

資料番号 12～26

IV 受入費用と手続きの内容

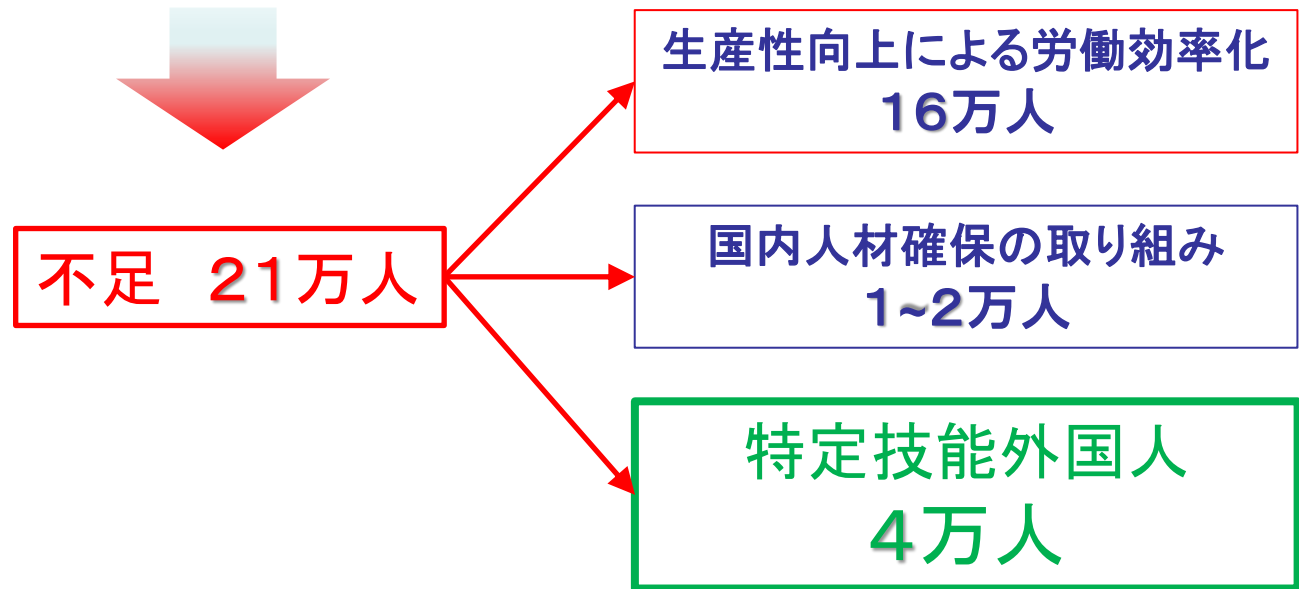
資料番号 27～36

1. 特定技能外国人受入れの目的

建設分野において深刻化する人手不足に対応するため、専門性・技能を生かした業務に即戦力として従事する外国人を受け入れることで、本分野の存続・発展を図り、もって我が国の経済・社会基盤の持続可能性を維持する。

建設技能者(H30年329万人)
R5年 326万人 に減少

働き方改革の進展
R5年 347万人 が必要



出典:「建設分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針」からの抜粋
(法務大臣、国家公安委員会、外務大臣、厚生労働大臣、国土交通大臣)

2. 業務区分の再編の概要

- ・細分化されていた業務区分を3区分に統合し、受入外国人ができる業務範囲が拡大
- ・建設関係の技能実習職種を全て3区分に分類し、技能実習からの特定技能への移行が容易に
- ・技能評価試験は、業務区分別の作業試験等はなくなり、3区分毎のCBT試験(コンピュータ出題試験)に統一

旧業務区分 (19区分)

建築板金
建築大工
型枠施工
鉄筋施工
とび
屋根ふき
左官
配管
保温保冷
内装仕上げ
表装
コンクリート圧送
建設機械施工
トンネル推進工
土工
電気通信
鉄筋継手
吹付ウレタン断熱
海洋土工

新業務区分 (3区分)

1. 土木区分

例：コンクリート圧送 とび
建設機械施工 塗装 等



2. 建築区分

例：建築大工 鉄筋施工 とび 屋根ふき
左官 内装仕上げ 塗装 防水施工 等



3. ライフライン・設備区分

例：配管 保温保冷 電気通信 電気工事 等



特定技能に移行できる技能実習職種

さく井、型枠施工、鉄筋施工、とび、
コンクリート圧送施工、
ウェルポイント施工、建設機械施工、鉄工、塗
装、溶接

建築板金、建具製作、建築大工、
型枠施工、鉄筋施工、とび、石材施工、タイル
張り、かわらぶき、左官、
内装仕上げ施工、表装、サッシ施工、防水施工、
コンクリート圧送施工、
築炉、鉄工、塗装、溶接

建築板金、冷凍空気調和機器施工、配管、熱
絶縁施工

3. 特定技能1号と特定技能2号の違い

	特定技能1号	特定技能2号
①在留期間	最長で5年	上限設定なし
②家族帯同	不可	可能
③日本語レベル	日本語能力N4レベル以上(能力証明が必要) 基本的な日本語を理解すること	日本語能力N2レベル相当を想定(能力証明は不要) 日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。
④業務レベル	図面を読み取り、指導者の指示・監督を受けながら、適切かつ安全に作業を行う技能や安全に対する理解力等が要求される。 技能検定3級程度	建設現場において複数の技能者を指導しながら作業に従事し、工程を管理することが要求される。 技能検定1級程度
⑤受入負担金の支払い要否	必要	不要
⑥登録支援機関の要否	必要 支援計画実施を全て受入企業が行う場合は不要	不要
⑦永住ビザ申請の可否	不可	可能

4. 特定技能外国人になるルート

建設分野のほとんどの職種の技能実習生が、試験なしに在留資格「特定技能」への切替えが可能となりました。特定技能外国人になるルートは以下の2つがあります。



ルート1：技能実習等を経験していない外国人の場合（試験合格者）

ルート2：技能実習等を経験している外国人の場合（試験免除者）

ルート1：技能実習等**未経験者**

技能評価試験

「建設分野特定技能1号評価試験」又は「技能検定3級」

日本語試験

「国際交流基金日本語基礎テスト」又は「日本語能力試験（N4以上）」

ルート2：技能実習等**経験者**

- 技能実習2号を良好に修了した者※
- 外国人建設就労者

特定技能1号

●在留期間は通算5年

●家族の帯同不可

班長として一定の実務経験「建設分野特定技能2号評価試験」又は「技能検定1級」に合格

特定技能2号

●在留期間の更新に上限なし

●家族（配偶者・子）の帯同可

※技能実習を2年10か月以上修了し、随時3級もしくは評価調書が提出できる者。

5. 将来の作業船乗組員の確保の必要性

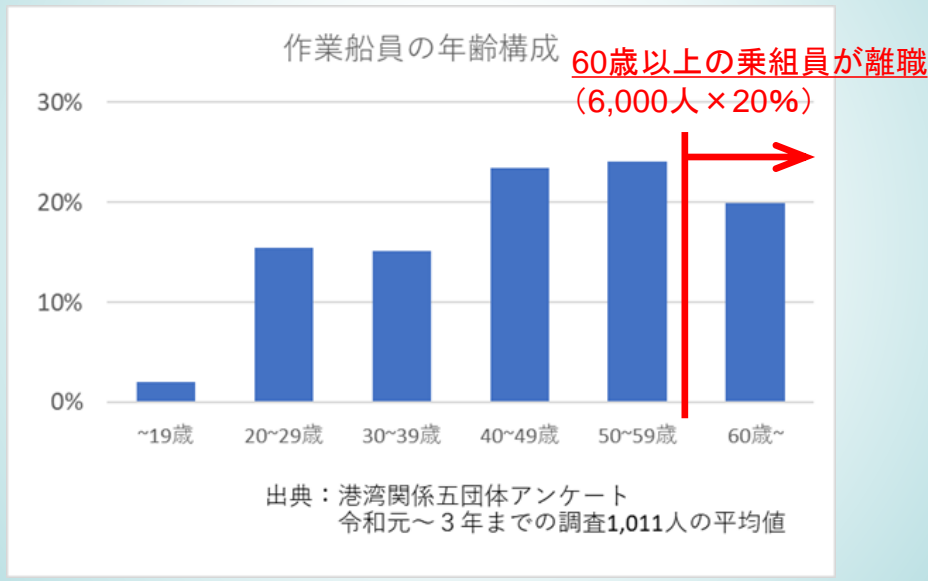
✓ 主要作業船の乗組員の現状

- ・主要作業船の隻数800～900隻 ⇒ 乗組員数:約6,000人
(起重機船440隻、グラブ浚渫船185隻等において船種毎の標準的な定員により推計)

✓ 乗組員に関する今後の動向

- ・働き方改革による増加、生産性向上による減少 ⇒ 当面、乗組員増減はなし
- ・洋上風力プロジェクトによる国内大型SEP船建造(4隻) ⇒ 乗組員300人以上増

✓ 今後5～10年間で乗組員の1,200人減



今後5年間

1,000人程度(200人/年)

乗組員の入職が必要

- ・通常作業船 $1,200 \div 2 = 600$ 人
- ・風力SEP船 300人

すべて日本人で対応可能か??

6. 外国人就労に対する企業の不安

作業船乗組員働き方改革に向けてのアンケート調査結果(R3年7月)

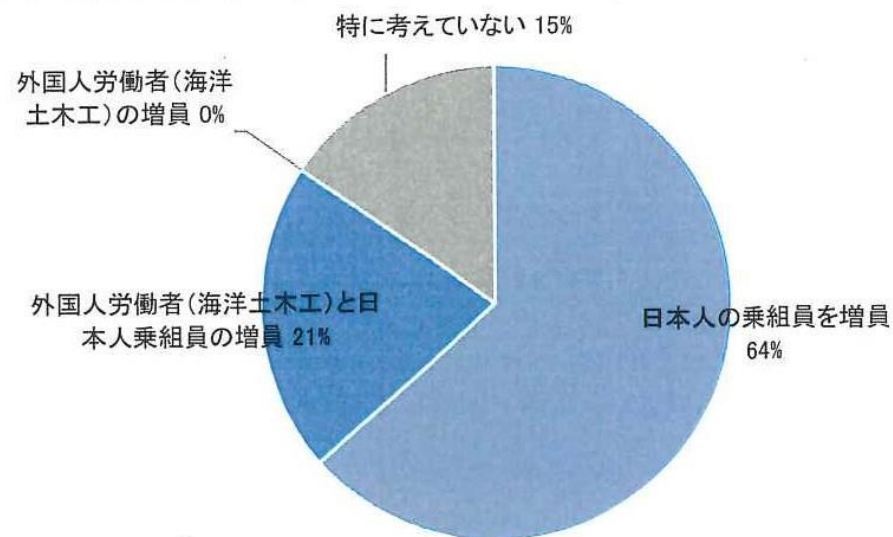
調査対象 全国浚渫業協会 12社
日本海上起重技術協会 21社
日本埋立浚渫協会 21社

不足する作業船乗組員の増員の多くは、
日本人の乗組員の増員で対応

(主な理由)

- ✓ 作業船の運転は、乗組員のコミュニケーションが重要で、外国人の採用は慎重に対応
- ✓ チームワークを考えると外国人は難しい
- ✓ 非定常作業のため、外国人は言語の面で安全作業が担保できない
- ✓ 作業に専門技術が必要
- ✓ 長期間働いてもらえる方がいい
- ✓ 技術継承を考えると日本人を雇用したい
- ✓ 生活習慣上難しい

コミュニケーションやチームワークの観点
作業の専門性、安全作業の観点
技術継承のため、長期雇用の観点



外国人雇用は難しい??

7. 海洋土木工事における特定技能外国人

【通常の受入れ方法】

受入れ方法	日本語能力 & コミュニケーション	海洋土木に関する 専門技術	海洋土木工事に対する意識 (作業船上の生活)
特定技能評価試験 合格者 (ルート1)	△ 試験合格のみでコミュニケーション能力は未知数	× 評価試験土木の範囲のみ	× 採用時の企業説明内容程度
技能実習からの移行 (ルート2)	○ 就労経験があり一定のコミュニケーション能力あり	× 技能実習の職種技能のみ	× 採用時の企業説明内容程度



課題を解決し、海洋土木工事における外国人技能者受入れの不安を解消

【日港連が提案する受入れ方法】

海洋土木技能講習 + 特定技能評価試験 合格者	○	○	○
-------------------------------	---	---	---

8. 特定技能外国人の受入れ(日港連の提案)

【ポイント】

海洋土木技能者の候補者募集



日本語教育



海洋土木技能講習



技能評価試験 & 日本語試験

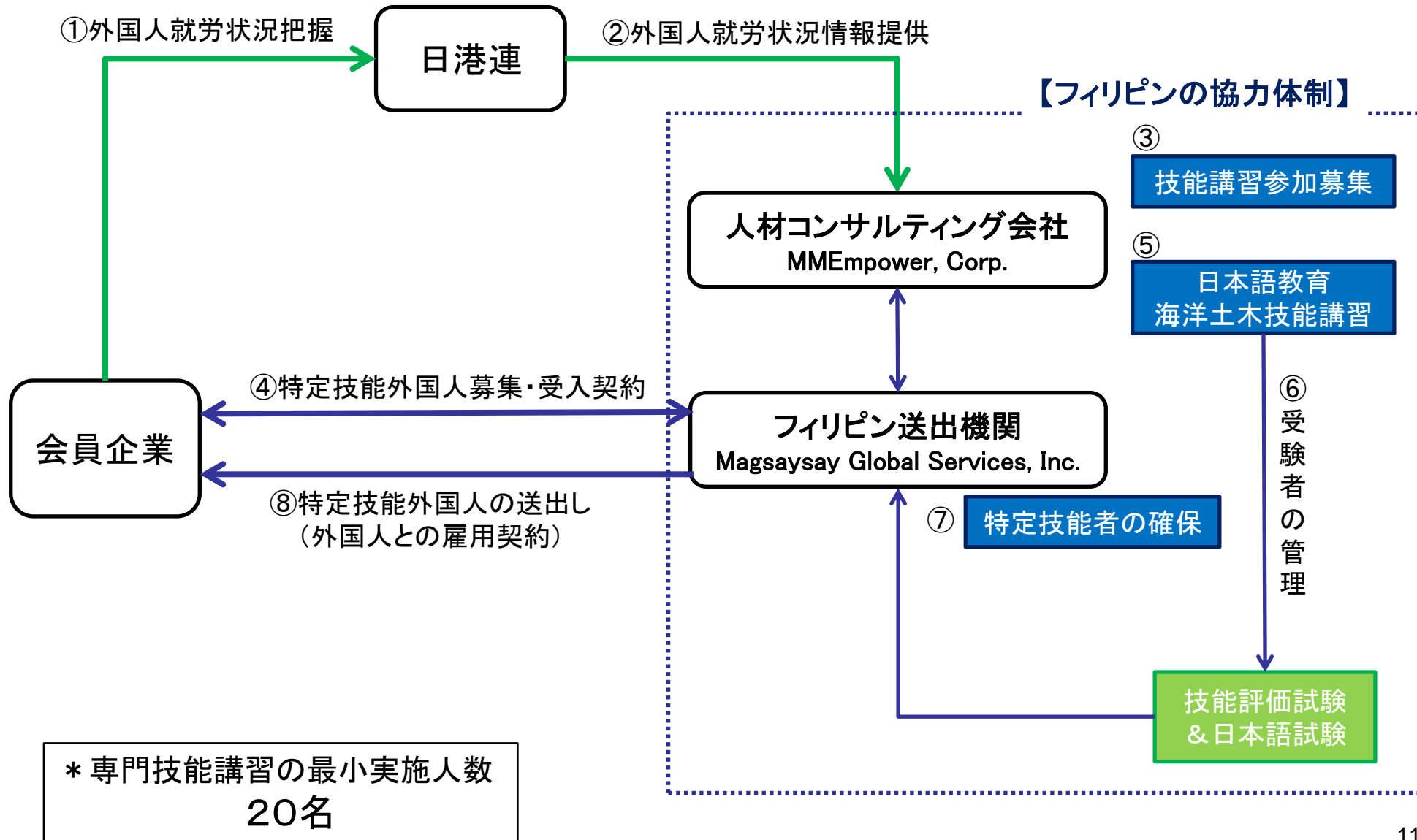
- ・海洋土木の仕事の内容、働く現場の状況、給与水準、資格等能力向上制度、日常生活等について、わかりやすく説明した上で候補者を募集

- ・特定技能として必要なN4相当の日本語能力を習得できるよう教育
- ・また、専門技術に係る日本語も教育

- ・海洋土木に関する施設、工事、作業方法等の基礎知識の習得
- ・海洋土木の現場における安全作業の理解
- ・海洋土木の基本作業に関する基礎実技の訓練

JAC等が行う試験の受験

9. フィリピンからの特定技能外国人の受入れ(日港連の提案)



10. フィリピンの協力機関の概要

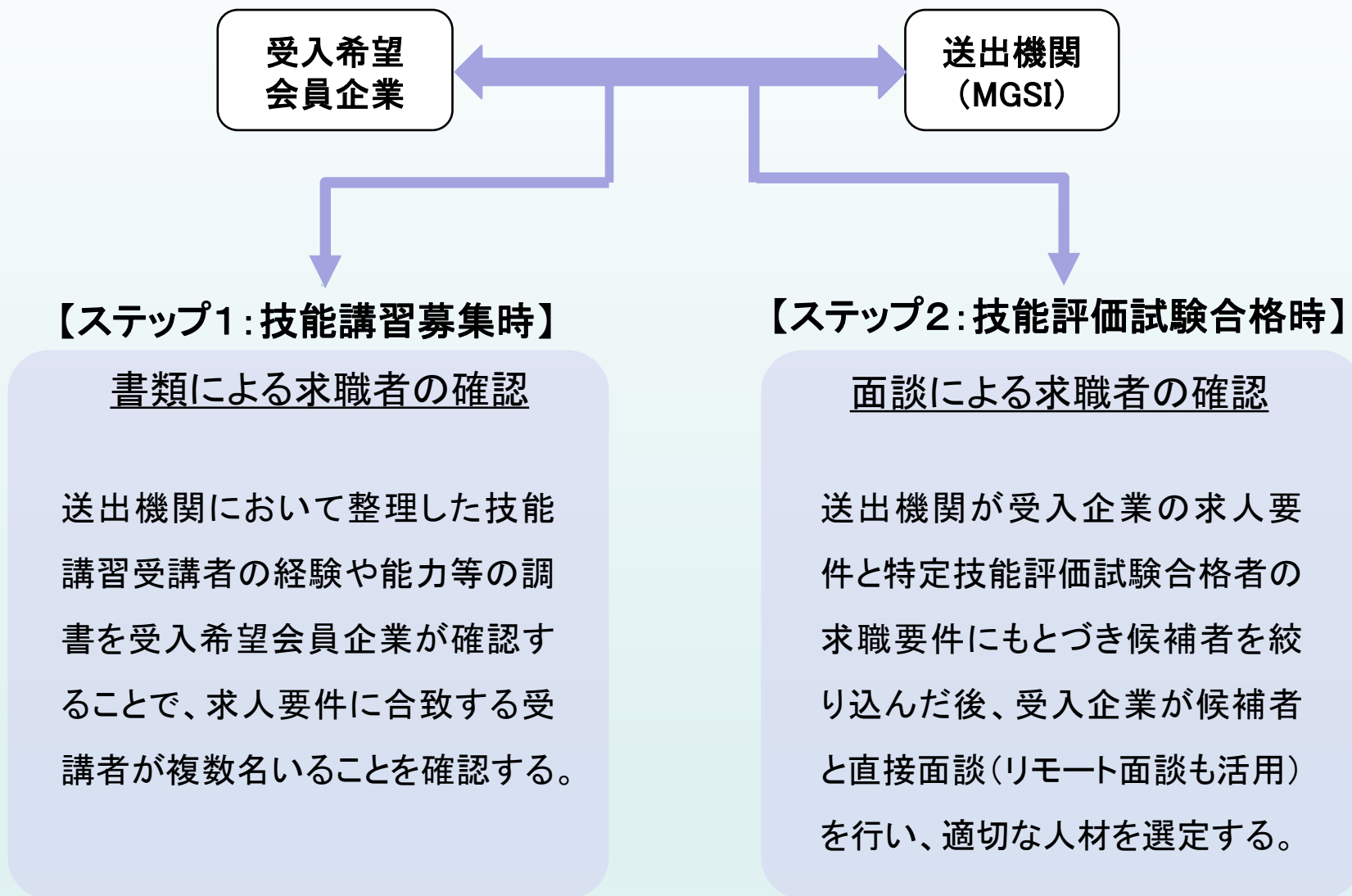
MGSI(Magsaysay Global Services, Inc.)

- ・フィリピン国内実績トップクラスの質の高い教育とケアを有する人材紹介グループ会社の海外部門会社。主な派遣先は、中東、アジア、米国、カナダ、ヨーロッパ
- ・1948年設立。フィリピン共和国第七代大統領ラモン・マグサイサイ一族
- ・フィリピン政府が認定する特定技能送出機関(278社)の一つ
- ・派遣実績は、海上専門職、飲料、調理、家事支援、カジノ、介護・医療等、年間約40,000人(うち船員は約8,000人)

MME(MMEmpower, Corp.)

- ・2020年10月に商船三井(MOL)とMagsaysayグループの人材紹介会社が共同で設立した日系企業向けの外国人材のコンサルティング会社。
- ・MOLとMagsaysayは、船員育成・輩出に深い関係があり、マニラ郊外には共同で保有・運営する船員育成施設を所有。
- ・2021年5月にMMEとしての最初の事業が開始。大阪ガスの協力会社がフィリピン人を配管工として長期にわたり安定的に受け入れる仕組みづくり支援(送出し機関及び研修施設の案内、入国前教育(日本語教育、配管教育)の検討など)を行い、現地の情報提供や関係者間コミュニケーションサポート等を行っている。

11. 海洋土木技能者の選考にあたっての具体的な方法



12. 日港連の受入れ方法における教育/技能講習

- ・ 日本語教育
 - ・ 5か月の日本語教育を行い、N4レベルの日本語能力試験に合格させます。
N4レベルの日本語能力は、基本的な日本語を理解し、日常生活ができるだけでなく、受入れに必要な日本語能力があると評価されており、職場において、指導者の指示を理解し、基本的なコミュニケーションはできるとされています。

 - ・ 海洋土木技能講習
 - ・ 1週間（30時間）の海洋土木技能講習を行い、海洋土木工事の初級技能者として獲得すべき基本的な技能と工事や安全の基本的な知識の確認・習得を行います。
-
- | | |
|-----------------------|------|
| 1) 「海洋土木工のテキスト」を使った教育 | 22時間 |
| 2) 模擬装置や実物機械・用具を使った講習 | 8時間 |

13. 日港連の受入れ方法における教育/技能講習

- 海洋土木技能講習は、以下のカリキュラムで行うことにしています。

項目		時間
1	海洋土木工事の解説	5
1-1	概要	1
1-2	浚渫工事と埋立工事	1
1-3	岸壁工事	1
1-4	防波堤工事	1
1-5	その他	1
2	工事現場で行われる作業の解説	8
2-1	工事現場の組織	1
2-2	工事管理作業	1
2-3	作業船の係留作業	1
2-4	玉掛作業	1
2-5	クレーン作業	1
2-6	ウインチ作業	1
2-7	コンクリート打設作業	1
2-8	作業と資格	1
3	工事現場における安全作業の解説	9
3-1	安全作業の基本	3
3-2	それぞれの作業の安全	3
3-3	危険作業の具体例	3
4	工事現場における模擬・実機作業	8
4-1	作業船係留の模擬・実機作業	2
4-2	玉掛作業の模擬作業	2
4-3	クレーン作業合図の模擬作業	2
4-4	ウインチ作業の模擬・実機作業	2
合計		30

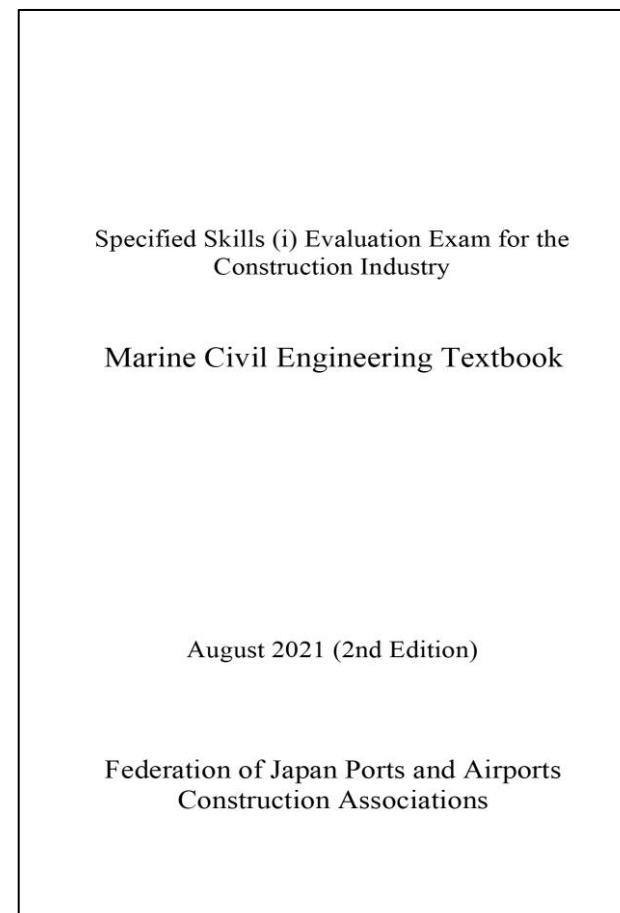
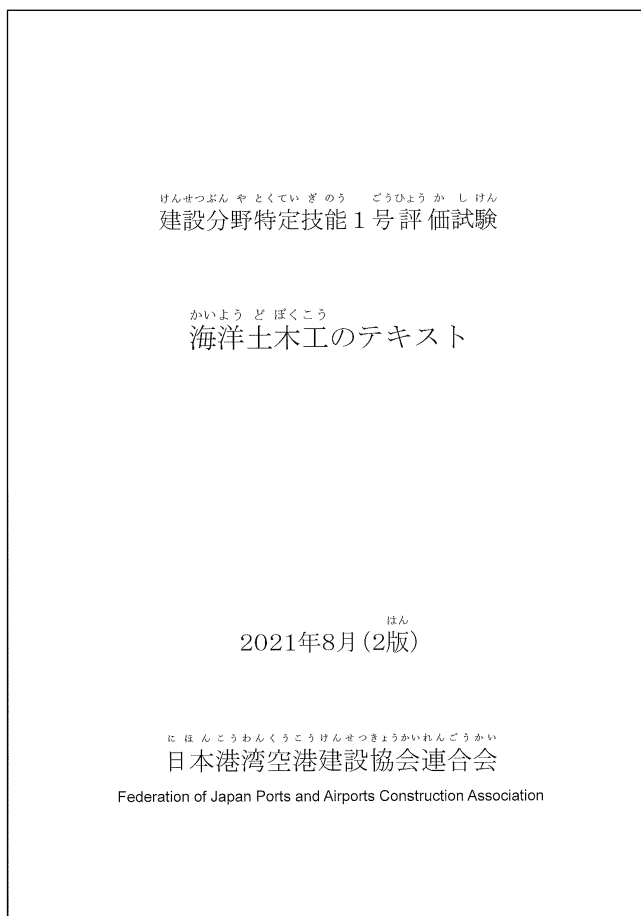
- 全体を通して、テキスト(日本語版)とテキスト(英語版)の併用、視聴覚教材、訓練用ビデオの使用で、自習を含め、短時間に効率よく、知識の確認・習得を進めます。
- 具体的な作業については、作業船上や海上で行う海洋土木工事の作業の特徴を確認・習得します。
- 安全では、視聴覚教材を使用するとともに、KYシートを使った危険予知の知識と技能を確認・習得します。

・綱取り・玉掛・クレーン・ウインチ各作業について、模擬装置、訓練ビデオを使い、効率よく技能を確認・習得します。

・ウインチ、ビット、係留ロープなどの実物を使い知識・技能の確認・習得を確実にします。

14. 「海洋土木工のテキスト(2版)」を使った技能講習

- ・ テキストは、全体で220ページありますが、以下の工夫で学習し易くなっています。
 - ①やさしい日本語を使用し、漢字にルビを付し、外国人が自習できるようにしてあります。
 - ②写真や図表をたくさん使って理解し易くしてあります。
- ・ 自習を促し確実な知識の確認・習得を行うためにテキスト（英語版）を併用します。



15. 海洋土木工のテキスト(2版)の構成

1. 海洋土木の工事の かんたんな説明.....	1
1.1 海洋土木の工事	1
1.2 海洋土木の工事の特別な ところ.....	4
2. 工事の説明.....	9
2.1 浚渫工事と 埋立工事	9
2.1.1 目的	9
2.1.2 工事の方法	10
2.1.3 工事の手順	12
2.2 地盤改良工事.....	22
2.2.1 目的	22
2.2.2 工事の方法	22
2.2.3 工事の手順	24
2.3 鋼矢板・杭工事	31
2.3.1 目的	31
2.3.2 工事の方法	35
2.3.3 工事の手順	38
1) 鋼矢板工事の手順.....	38
2) 鋼管杭工事の手順.....	41
2.4 基礎捨石投入と均し工事.....	47
2.4.1 目的	47
2.4.2 工事の方法	48
2.4.3 工事の手順	51
2.5 コンクリートブロックの製作と据付工事	56
2.5.1 目的.....	56
2.5.2 コンクリートブロックの製作と据付工事の方法	59
2.5.3 コンクリートブロックの製作と据付工事の手順	60
2.6 ケーソン等大型構造物の運搬と据付工事	66
2.6.1 目的	66
2.6.2 運搬・据付工事の方法	67
2.6.3 工事の手順	69
2.7 現場コンクリート打設工事	75
2.7.1 目的	75
2.7.2 工事の方法	75
2.7.3 工事の手順	78

1. 海洋土木工事の簡単な解説

・港湾などの主な海洋構造物の名称と簡単な役割、工事の環境など海洋土木工事の全体に関する知識を確認・習得します。

2. 工事の説明

・代表的な7つの海洋土木工事の内容に関する知識を確認・習得します。

16. 海洋土木工のテキスト(2版)の構成

3. 海洋土木工が働く工事現場と海洋土木工の作業.....	82
3.1 海洋土木工が働く工事現場.....	82
3.1.1 工事現場の組織.....	82
3.2 海洋土木工の作業.....	86
3.2.1 現場管理作業.....	86
1) 測量.....	86
2) 出来形確認.....	89
3) 工程管理.....	90
4) 品質確認.....	91
5) 現場点検.....	92
3.2.2 作業船に関する作業.....	94
1) 点検と整備作業.....	94
2) 作業船の回航作業.....	100
3) 作業船の着岸・離岸作業と係留・停泊作業.....	105
4) 作業船の固定作業.....	110
5) 玉掛作業.....	115
6) クレーン作業.....	124
7) ウインチ作業.....	134
8) 海の安全管理作業.....	142
3.3 資格の必要な作業.....	145

3. 海洋土木工が働く工事現場と海洋土木工事の作業

・海洋土木工事における組織と作業指示など工事の進め方、主な作業と大まかな手順に関する知識を確認・習得します。

17. 海洋土木工のテキスト(2版)の構成

4. 作業の安全	148
4.1 海洋土木工の安全	148
4.1.1 安全な作業の基本	150
1) 作業の指示	150
2) 海洋土木工の服装	150
3) 資格が必要な作業	153
4) 合図を出す人の指名	153
5) 作業の指示者への連絡	154
6) 危険なところに注意	156
7) 作業船への乗り降り	158
8) 網取り作業	162
9) 作業船の上での移動	167
10) 作業船の ゆれ	168
11) 火を使ってはいけない場所	169
12) 片付け、掃除	169
4.1.2 それぞれの作業の安全	171
1) 高所作業	171
2) つり作業	175
3) えい航作業	179
4) 揚錨作業と投錨作業	181
5) ウインチ作業	182
4.2 危険発見シート	186
シート1 作業船から岸壁への作業員の乗り降り	187
シート2 岸壁から作業船への荷物の積みこみ	189
シート3 作業船の網取り作業	191
シート4 クレーン作業1	193
シート5 クレーン作業2	195
シート6 クレーン作業3	197
シート7 ウインチ作業1	199
シート8 ウインチ作業2	201
シート9 投錨作業とロープ	203
4.3 作業船にある表示(サイン)	205

4. 作業の安全

・海洋土木工事の安全、特に作業船上における安全行動の基本的事項に関する知識を確認・習得します。

18. 海洋土木技能講習の例【1. 海洋土木工事の解説】

海洋土木工事の全体を理解します。

1. 海洋土木の工事の かんたんな説明

1.1 海洋土木の工事

①海洋土木とは、港、空港などの施設を海や川に建設する工事です。近年は、港や空港の他に、海に風力発電タワーを建設することもあります。



図-1 港

港湾の施設の名称と役割を理解します。

②港には、いろいろな施設があります。例えば、船がとまる岸壁、波が入ることを防ぐ防波堤、船が安全に通る航路、工場などが建つ埋立地などがあります。

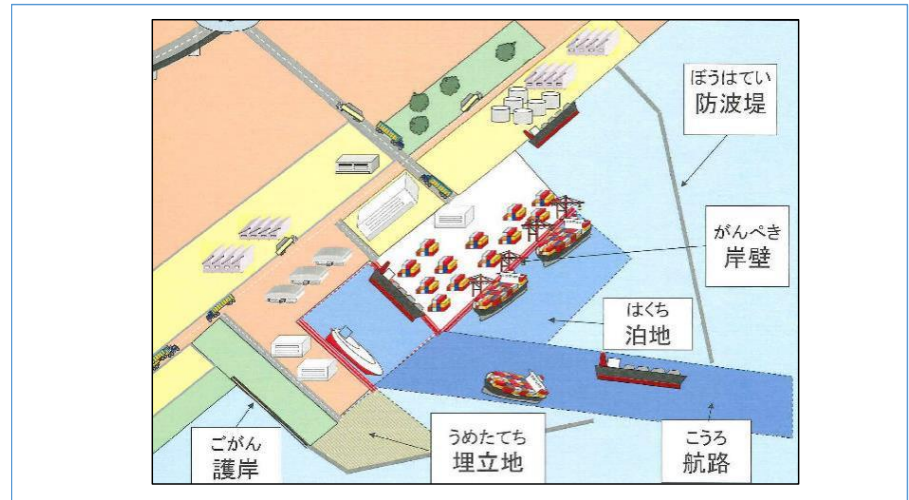


図-1 港の施設

③施設は、それぞれ非常に大きなものです。船がとまる岸壁は、長さが200~300mになります。波を防ぐ防波堤は、コンクリートの箱などを海に並べてつくります。ひとつの箱が8階建てのビルと同じくらいの高さになるものもあります。

19. 海洋土木技能講習の例【1. 海洋土木工事の解説】

工事の内容に関する知識を確認・習得します。
視聴覚教材を使って、実際の工事の状況を見て理解を助
けます。

2. 工事の説明

2.1 浚渫工事と埋立工事

2.1.1 目的

① 浚渫工事は、海や川などの底の土砂を取りのぞく工事のことで
す。

② 浚渫工事の目的は、船が安全に通ることが できるように、海や
川を深くすること（航路浚渫）、船が安全に とまることが できる
場所を用意すること（泊地浚渫）、構造物を建設する場所の 凹凸
を取りのぞくこと（床掘浚渫）、海や川の底に たまった汚れた 泥
を取りのぞくこと（汚泥浚渫）などがあります。

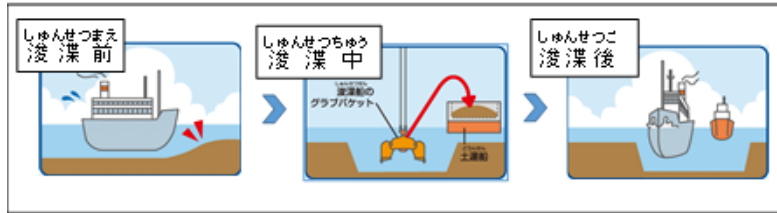
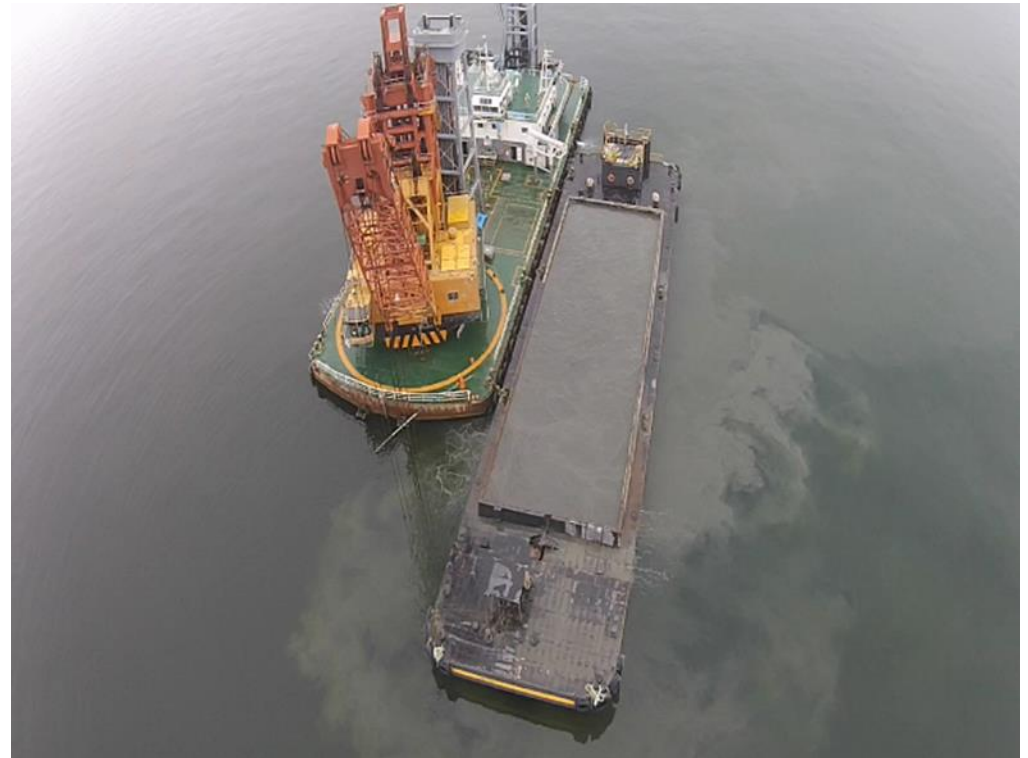


図-1 浚渫工事

③ 埋立工事は、海や川に土砂を集めて新 しい土地をつくる工事
のことで

④ 埋立工事の目的は、港 や空港を建設すること、家や工場のため
の土地をつくることです。埋立工事では、浚渫工事によって 出た
土砂を使うことがあります。



視聴覚教材の例(当日動画)

20. 海洋土木技能講習の例 【2. 工事現場で行われる作業の解説】

日本の工事現場の組織体制や工事現場での作業指示のされ方を理解するとともに、作業船を使った工事の特殊なところを確認・習得します。

3. 海洋土木工が働く工事現場と海洋土木工の作業

3.1 海洋土木工が働く工事現場

3.1.1 工事現場の組織

- ①工事現場では、いろいろな会社が集まって工事を行っています。
工事の全体をまとめる会社が指示を出し、作業ごとに専門の会社が作業を行います。
- ②専門の作業を行う会社には、作業を指示する職長と作業を行う作業員（海洋土木工は海の工事を行う作業員です）が集まって、1つのグループとなって、作業を行います。作業員は、必ず職長の指示を受けて作業を行います。

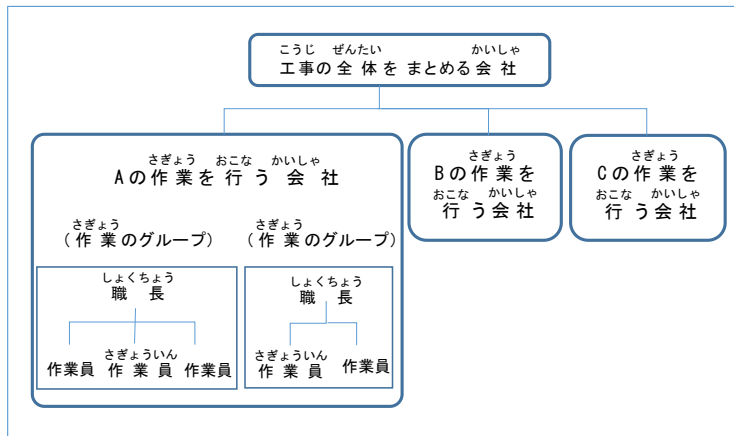


図-1 工事現場の組織と作業の指示



図-1 職長の指示のようす

- ③作業船を使う工事現場では、専門の作業を行う作業船がたくさん集まっていっしょに作業します。この船の集まりのことを船団と言います。工事を使う作業船の全体をまとめる人を船団長と言います。船団長が作業船に指示を出して、作業を行います。

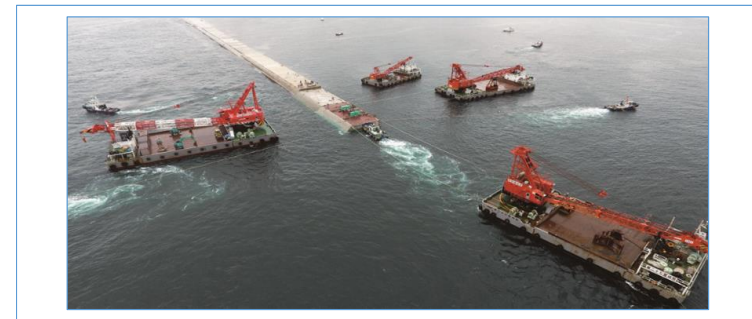


図-2 船団による工事のようす

21. 海洋土木技能講習の例 【2. 工事現場で行われる作業の解説】

作業する人の様子が分かる写真を使って作業の理解を助けます。

5) 玉掛作業

(1) 目的

- ① 玉掛作業は、クレーンを使って荷物を 釣り上げるとき、荷物にワイヤを取り付けたり、はずしたりする作業のことです。
- ② 海の工事では、起重機船（クレーン船）を使って、コンクリートブロックや いろいろな機材の積みおろしを行います。玉掛作業は、クレーン作業と連絡を取って行います。

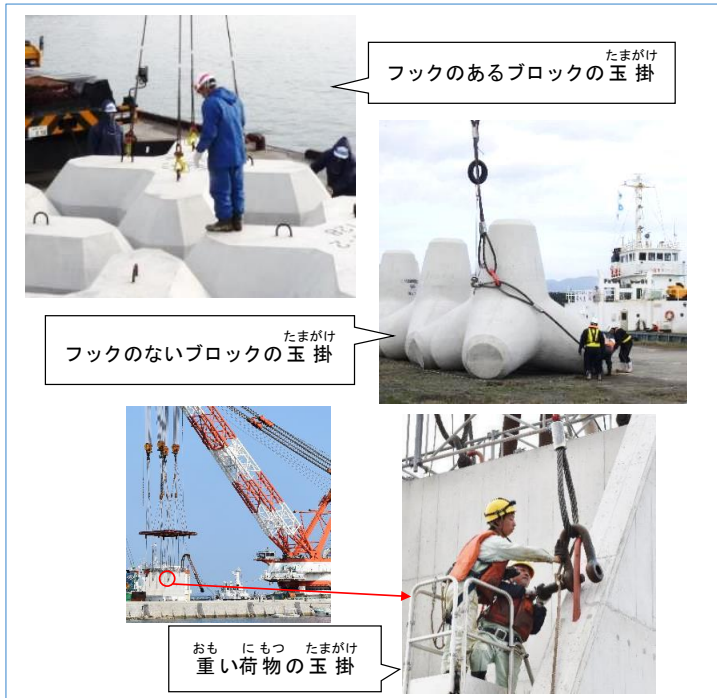


図-1 玉掛作業の例

ポンチ絵を使って解説のポイントの理解を助けます。

よく見えるところに立ちます。

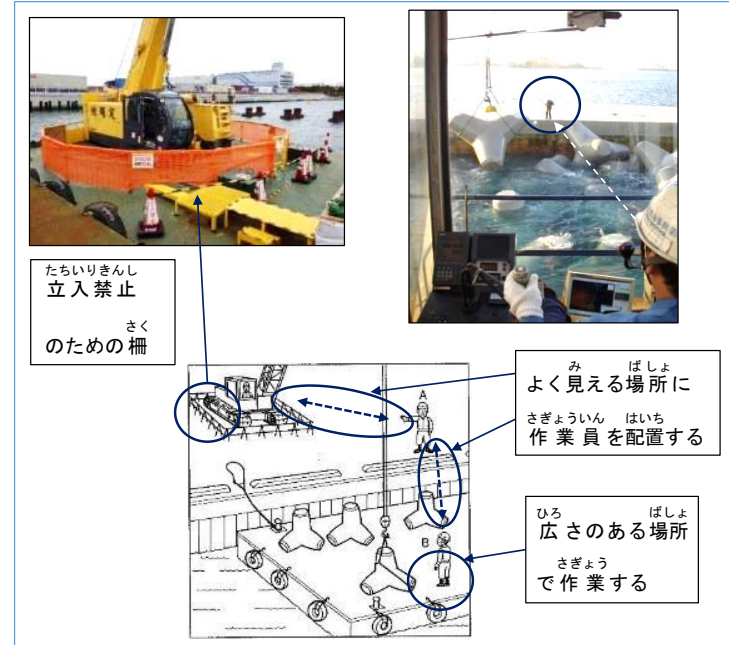


図-1 クレーン作業の安全の確認の例

④ クレーンの運転

合図を出す人の合図にしたがって、クレーンオペレーターは、クレーンを運転し、土砂や石、ブロックなどの重いものを 釣り上げ、指示された場所に移動し、投入したり、下ろします。

22. 海洋土木技能講習の例 【3. 工事現場における安全作業の解説】

ポンチ絵で安全のポイントを分かり易く解説し、写真で実際の状況を確認し理解を確実にします。



図-1 玉掛作業は資格のある作業員だけが行う



図-1 ロープをはずすときは、船が止まってから

②荷をつり上げたら、すぐにつり荷の近くから離れます。つり荷の下は危険です。つり荷の下には入ってはいけません。

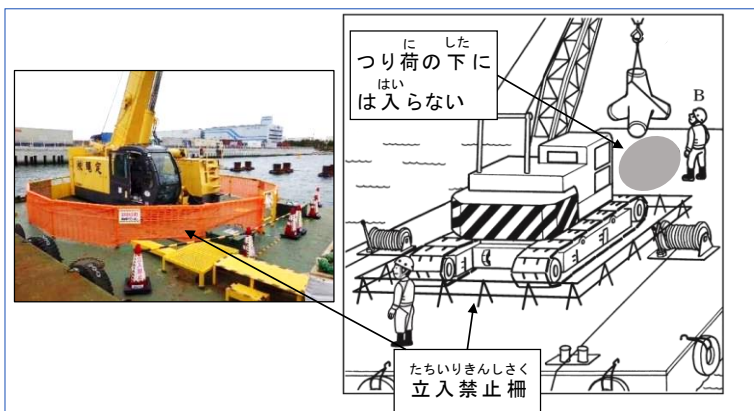


図-2 つり荷の下には入らない

4) 揚錨作業と投錨作業

①ウインチの巻きワイヤの下に入ったり、ワイヤをまたいだりしてはいけません。船のゆれでワイヤが急にゆるんだり、引かれたりして動くことがあります。

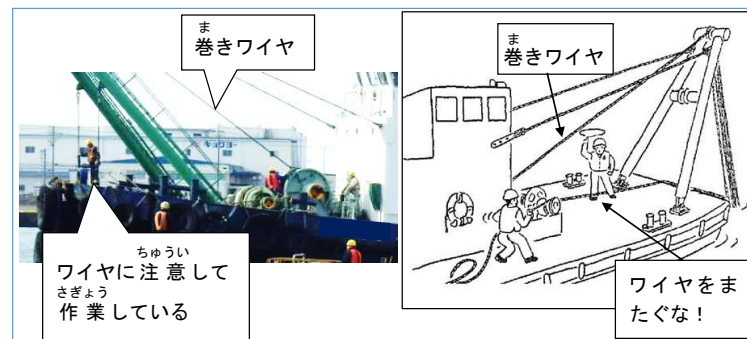


図-2 ウインチの巻きワイヤの下に入るな!

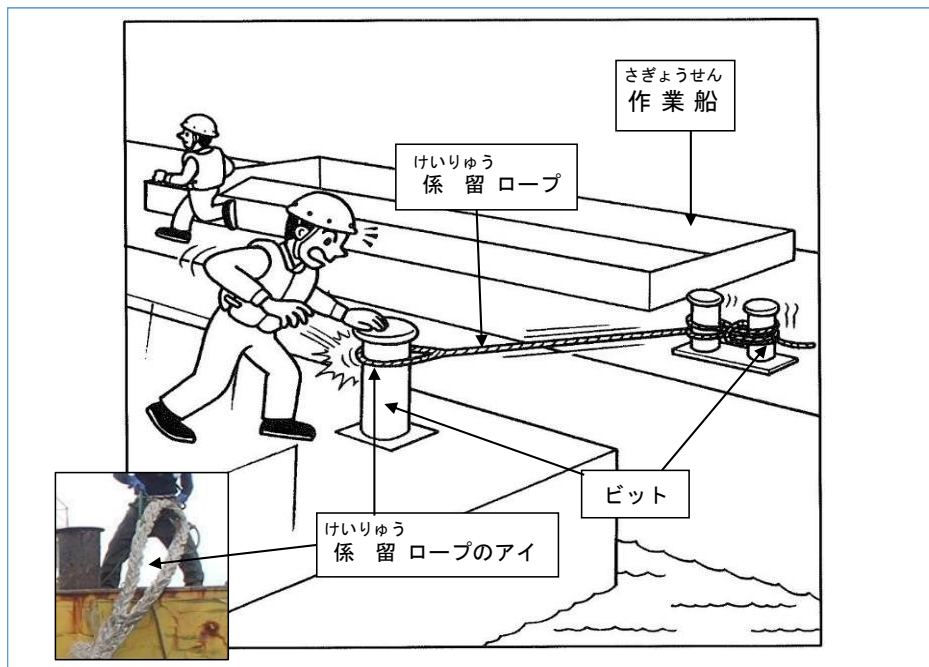
ワイヤをまたぐな!

23. 海洋土木技能講習の例 【3. 工事現場における安全作業の解説】

KYシートを使って危険個所を発見し回避する知識と技能を確認・習得します。

シート3 さぎょうせん つなと さぎょう
作業船の綱取り作業

けいりゆう さぎょうせん つなと
係留ロープで作業船の綱取りをしようとしている。



きけん み
[危険を見つける]

- ① 作業員が係留ロープのアイに手を入れて、係留ロープをビットにかけようとしたので、ビットと係留ロープの間に手をはさまれる
- ② 作業船の係留ロープを固定していたので、ロープにゆるみがなく、ビットと係留ロープの間に手をはさまれる。

作業船にある安全の表示(サイン)の意味を確認・習得します。

4.3 作業船にある表示(サイン)

立入禁止 (たちいり きんし)

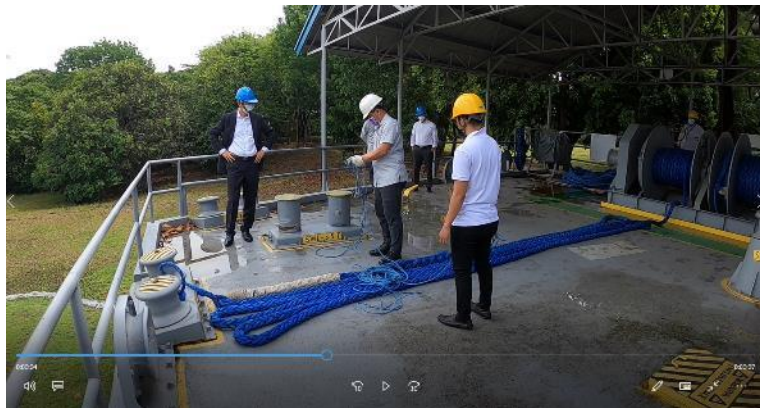
ひょうじ ばしょ なか はい
表示のある場所の中に入っては いけない



24. 海洋土木技能講習の例 【4. 工事現場における模擬・実機作業】

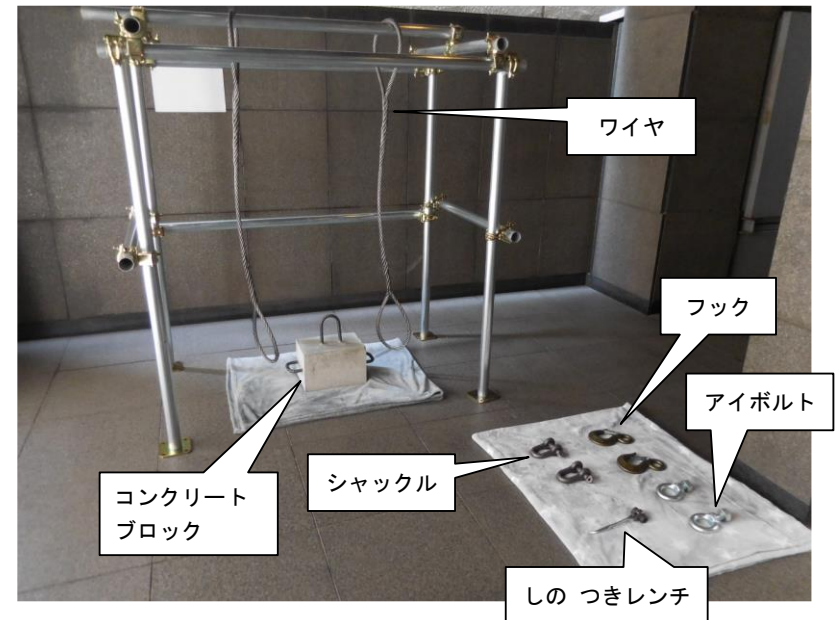
4-1 作業船係留の模擬・実物作業

模擬装置を使って作業船が岸壁に係留する綱取り作業を行い技能を確認・習得したのち、実物の係留ロープやビットを使って実践の技能を確実なものにします。



4-2 玉掛作業の模擬作業

吊り筋の付いたコンクリートブロックを適切な玉掛器具を選別し、正しく連結して吊り上げる玉掛作業を実践し技能を確認・習得します。



25. 海洋土木技能講習の例 【4. 工事現場における模擬・実機作業】

4-3 クレーン作業の模擬作業

クレーンで消波ブロックを据付ける作業のビデオに合わせて合図作業を実践し技能を確認・習得します。



4-4 ウインチ作業の模擬・実物作業

模型等を使ったウインチ作業を行い技能を確認・習得したのち、実物のウインチを使って実践の技能を確かなものにします。



26. 海洋土木技能講習の例 【工事中の作業船での共同生活の解説】

工事中に作業船で少人数で共同生活しながら作業を行うことがあることや共同生活をする上での規範や習慣の理解を促します。



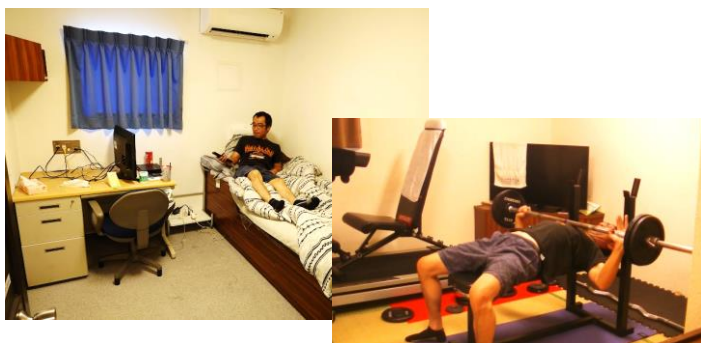
少人数での共同生活



食堂で食事



風呂で休養



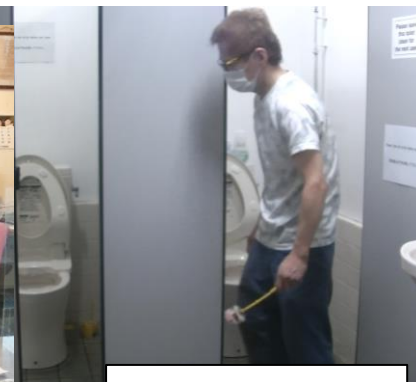
自由時間は個室やジムで



衣服の洗濯



部屋の掃除



トイレの掃除

27. 今回提案の方式による受入れ経費のイメージ

特定技能外国人の受入れに必要な費用(給与を除く)

約340～480万円(一人あたり、5年間雇用した場合)

【内訳】

項目	金額	内容
<u>イ. JAC関係費用</u>		
受入負担金	120万円	2万円/月(海外試験及び技能講習の場合)
<u>ロ. 海外手続き費用</u>		
送出国機関への支払い	35万円	人材募集、技能講習、人選、送出国等の手続き
日本語教育費用	14万円	日本語能力N4相当

28. 今回提案の方式による受入れ経費のイメージ(つづき)

項目	金額	解説
八. 国内手続き費用		
送出機関手続き支援	20万円	送出機関との契約の取次等
受入計画認定申請委託	4～8万円	自ら行えば不要、専門業者に委託可能
在留資格証明書交付申請委託	10～20万円	〃
支援計画の作成と実施	120～240万円	2～4万円/月、自ら行えば不要、通常は専門業者に委託
在留資格更新手続き委託	4～8万円	毎年更新
入国時渡航費用	10万円	航空券等の実費

29. 特定技能外国人の給与等の考え方

関係法令

特定技能基準省令第1条第1項第3号

外国人に対する報酬の額が日本人が従事する場合の報酬の額と同等以上であること

告示第3条第3項第2号

一号特定技能外国人に対し、同等の技能を有する日本人が従事する場合と同等額以上の報酬を安定的に支払い、技能の習熟に応じて昇給を行うとともに、その旨を特定技能雇用契約に明記していること。

- ①報酬：3年以上の経験を有する技能者として扱い、同等の経験を積んだ日本人の技能者に支払っている報酬と比較し設定すること
- ②支払：安定的な報酬を確保するため月給制での支払いが必要。日本人の職員が月給制でない場合も、特定技能外国人に対しては月給制で支払うこと
- ③昇給：技能の習熟に応じて昇給を行うことが必要。賞与、各種手当、退職金についても日本人と同等に支給すること。就業規則や賃金規定において、無期雇用契約者と有期雇用契約者で賞与、退職金の取扱いが異なる場合、無期雇用契約者と同等以上で扱うこと

30. フィリピン人を受入れるための給与等について

・フィリピン人を受入れるには、駐日フィリピン大使館海外労働事務所(通称POLO)が行う「企業や給与雇用契約内容など求人に係る事項」の審査があります。

・POLOが審査で特に重視する事項は、給与、手当、賞与、住宅に関する事項です。

○基本給

○手当 : あることが重要。

○賞与 : あることが重要。

} この合計の月支給相当額 22~23万円 が相場

○住宅に関する事項 : 「住居の手配」や「住宅手当」があることが求められている。

【給与額のイメージ】

(最低賃金) × 1.1 + (手当) + (賞与) + α(住宅手当等)

31. 特定技能外国人受入れ後の教育のための支援制度

就労後の特定技能外国人に対し企業が行う研修・教育にあたっては、JACから支援(助成)を受けることができる。

□ 特別教育・技能講習等による資格取得に対する支援

受入後の特定技能外国人に対して、企業が特別教育・技能講習等を受講させ資格を取得させた場合は、その費用について全額の助成を受けることができる(上限あり)。

(ただし、厚生労働省の建設労働者技能実施コースを受講し、中小企業建設事業主として経費助成を受けた場合に限る。)

32. 2号特定技能外国人採用のメリット

熟練した技能を有する外国人は、職長としての一定の実務経験に加え、特定技能2号評価試験(又は技能検定1級でも可)に合格することで、特定技能2号の在留資格を得ることができる

【人事管理上のメリット】

在留期間の制限がない → 長期雇用が可能となり、計画的な人材育成が可能

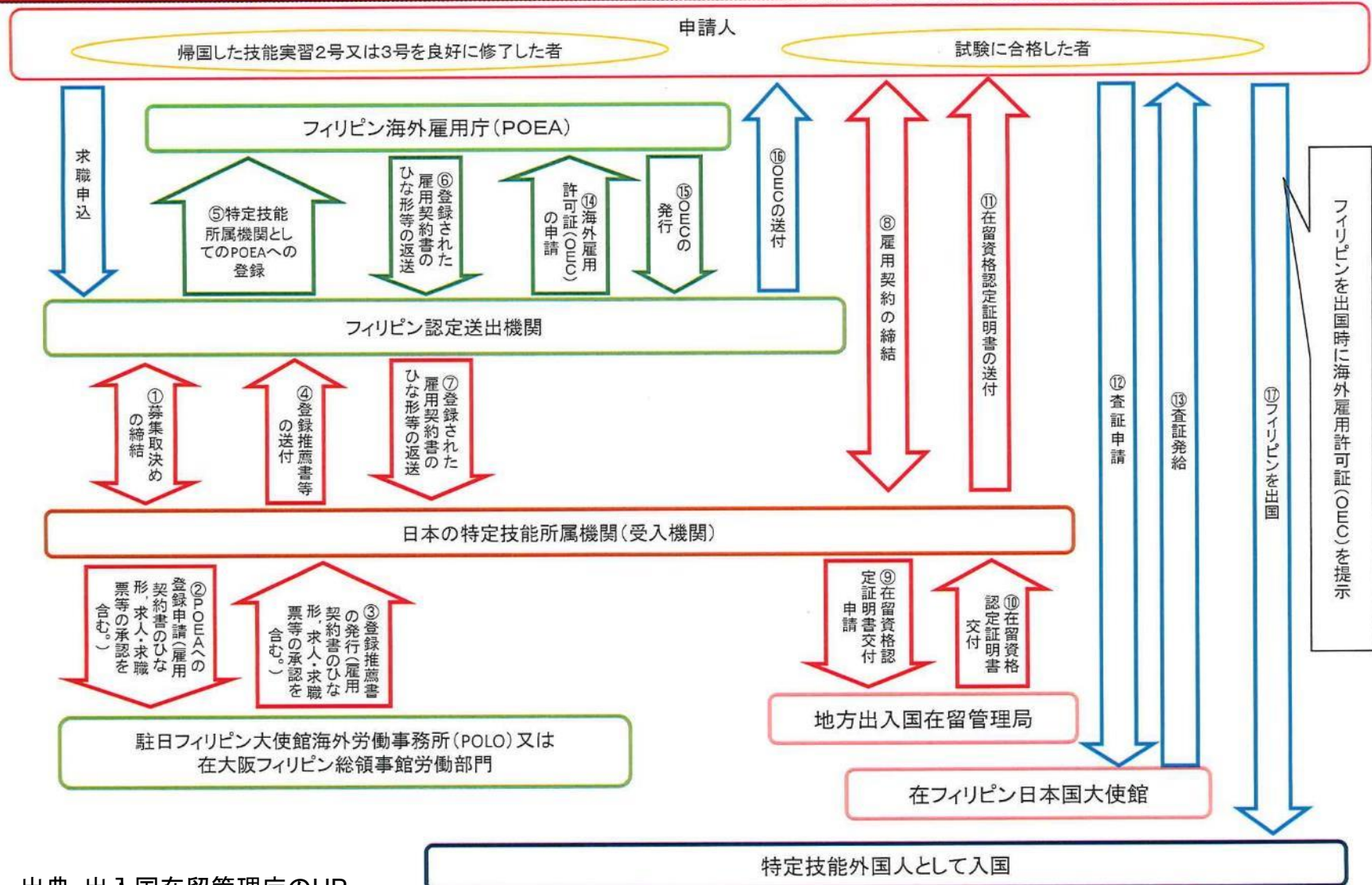
【経費上のメリット】

受入負担金が不要
(JAC) → 年間15～24万円の削減

支援計画が不要 → 年間24～48万円の削減
(計画実施を委託している場合)

33. フィリピン特定技能外国人に係る手続の流れ

フィリピン特定技能外国人に係る手続の流れについて フィリピンから新たに受け入れる場合

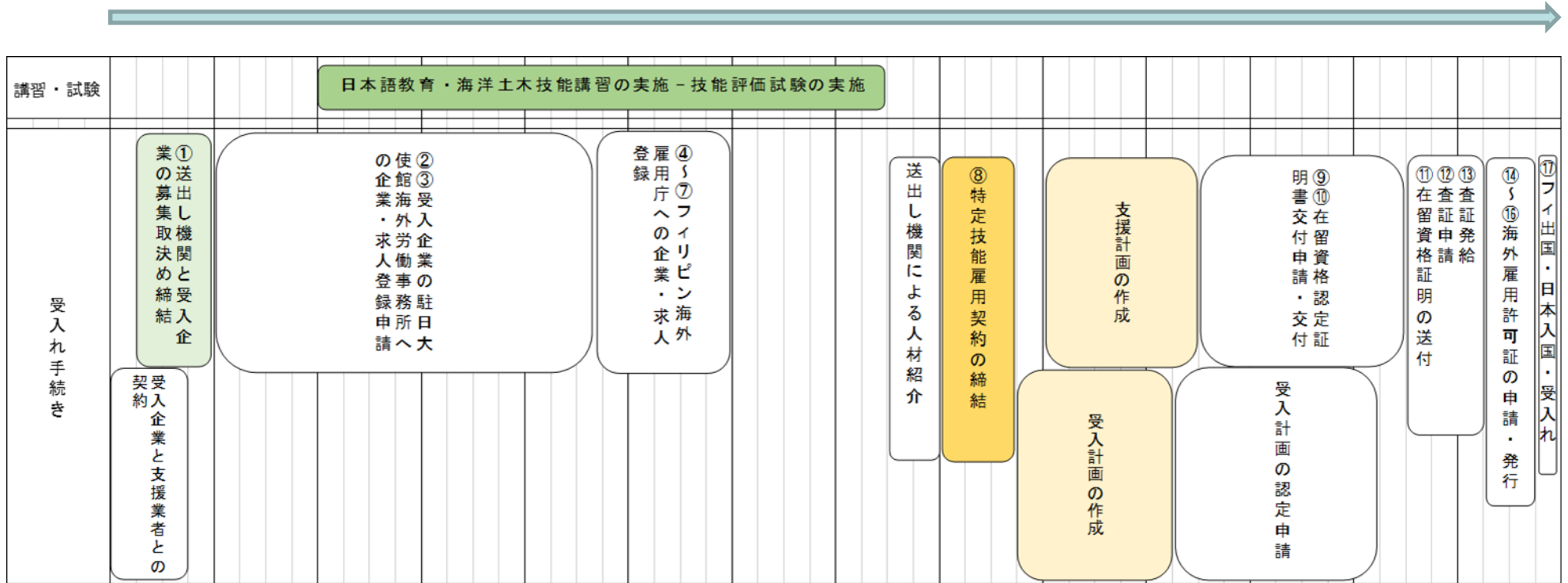


出典: 出入国在留管理庁のHP

34. 手続き開始から受入れまでに要する時間

・①送出し機関との契約から⑱受入まで 14か月程度で入国

14か月



※図中の番号○は、前ページの手続の流れ図の番号と一致しています。

35. 受入れのために受入企業がすべき事項(主なもの)

受入
前

- 1 建設業法第3条許可の取得（地方整備局または各都道府県）
- 2 JACに間接的または直接的に加入 → 会員証明書の入手
※建設特定技能受け入れ計画の認定申請に必須
- 3 建設キャリアアップシステムへの登録（（一財）建設業振興基金）
- 4 （特定技能雇用契約に係る）重要事項事前説明書
- 5 特定技能雇用契約の締結
- 6 建設特定技能受入計画の認定申請【オンライン申請】（地方整備局等）
※現に有する在留資格の在留期間満了日（または入国予定日）の半年前から申請可能
- 7 1号特定技能外国人支援計画の作成、事前ガイダンス（3時間）の実施
- 8 「在留資格変更許可申請」または「在留資格認定証明書交付申請」
【窓口またはオンライン申請】（地方出入国在留管理局）
※「在留資格変更許可申請」は現に有する在留資格の在留期間満了日の2か月前から申請可能
※「在留資格認定証明書交付申請」は入国予定日の3か月前から申請可能

受入
後

- 9 1号特定技能外国人受入れ報告の提出【オンライン申請】（地方整備局）
※受入れ後より1か月以内に提出
- 10 生活オリエンテーション（8時間）の実施
- 11 受入れ後講習の受講（FITS）
※受入れ開始後、概ね3か月以内に受講

36. 困った時には、日港連の外国人材センター事務局へ

- 今回の説明や資料に関する疑問・質問、制度全体の質問にかかわらず、“特定技能外国人を受入れるにあたっての疑問・質問”があれば、遠慮なくお気軽に以下にお問い合わせ下さい。

日本港湾空港建設協会連合会

外国人材センター事務局

担当 大西裕之

電話: 03-3432-2671(携帯: 090-4210-0432)

e-mail: onishi@nikkoren.com

- なお、以下のHPも参考にご覧下さい。
 - 日本港湾空港建設協会連合会 HP: <https://www.nikkoren.com>
 - 建設技能人材機構 HP: <https://jac-skill.or.jp>